

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

明石市長 丸谷 聡子

市町村名 (市町村コード)	明石市 (28203)
地域名 (地域内農業集落名)	西江井地区・福田地区 (西江井集落、福田集落)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年3月17日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区の農地21.3haのうち約18.8haは、平成12年から平成17年にかけて圃場整備事業が実施され、地区内にはパイプラインが設置されている。温暖な気候と大都市に近い地理的条件ではあるが、地区内の農家のほとんどが兼業農家であり、水稻を中心に生産を行っている。

平成13年には、効率的な農地利用と生産性を高めることと、農業に対する費用と労力の削減を目的として、「西江井地区営農組合」が設立された。当地区も他の地区と同様に、農業者の平均年齢が71.4才と高齢化が進み、後継者が不足する事態となっている。

また、全体として、農地の位置に高低差があり、農地の集約化を阻む地理的な要因となっている。

(2) 地域における農業の将来の在り方

地域として、減農薬(農薬の使用を半減以下に)・減化学肥料の取り組みとして、ヘアリーベッチ米を生産、「花美人」としてブランド化し、販売している。地球温暖化防止や二酸化炭素削減のため、順次、ヘアリーベッチ米の導入を進めていく。

自然や農業と触れ合う機会を求めている市民の期待に応え、また地区農業に愛着を持ち支援してもらえるように市民農園の運営を続けていく。

市民農園では、市内酪農家と連携し、牛糞をたい肥化のうえ、肥料として利用していく。個人ごとの農業機械投資を止め、大型機械の共同利用を進めていく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	21.3 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	21.3 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

なお、山陽電鉄江井島駅周辺については、市街化区域への変更後、区画整理が予定されており、該当部分については、除外する。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
離農、規模縮小が生じた場合、近隣の農業者を中心に西江井地区営農組合等が調整し、農地の集積、集約を検討していく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
個別で管理できなくなった場合は、所有者の貸し付け意向・時期などに配慮しながら、農地バンクへの貸し付けを行っていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
多面的機能支払交付金を活用し、水路等の長寿命化を図っていく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
市やJAと連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、栽培技術や農業用機械のレンタルなどの支援や生産する農地をあっせんし、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
地域内で農作業の効率化を図るため、西江井地区営農組合で農作業委託を受けることにより、遊休農地の発生防止に努めている。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①アライグマやヌートリアの被害が拡大しないよう市及び猟友会と連絡を密にし、捕獲機の設置・捕殺を進める。
- ②地域で進めているヘアリーベッチ米の販路の拡大に努める。
- ⑧担い手の営農や農業を担う者の利用状況などを考慮し、農協では、出荷・調製施設など農業用施設の集約化を進める。また、ヘアリーベッチ米を他の米と混合しないように乾燥機を別に用意する。
- ⑩今後、機械の更新の際には、大型化を進め、作業効率の向上や省力化を図っていく。